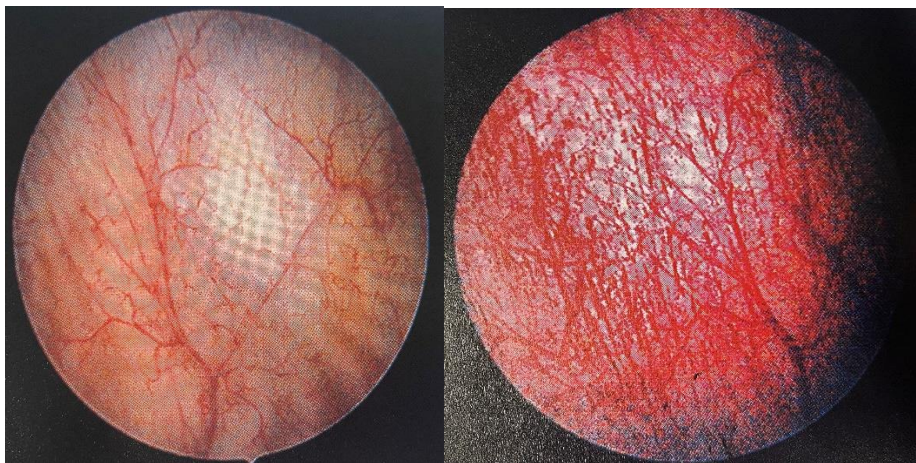


間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術（平均入院期間：3日）

膀胱炎は、おもに大腸にいる細菌に感染する「細菌性急性膀胱炎」がもっとも一般的で、排尿時に痛みがある、尿が濁る、残尿感がある、などの症状が生じます。抗生剤を投与することで改善します。しかし、その膀胱炎を半年に2回以上繰り返す場合は専門医の受診が必要です。

単純な膀胱炎として繰り返し治療を受けている人の中に、「**間質性膀胱炎**」という疾患が隠されている場合があります。治療に抵抗する頑固な頻尿や、尿が溜まると膀胱に強い痛みや不快を感じる骨盤・膀胱痛症候群ともいわれる症状がある人もいます。生活指導に加え、薬物療法を行います。有効な治療法は確立しておらず、ハンナ型潰瘍を伴う間質性膀胱炎は平成27年に難病指定を受けています。

診断には、麻酔をかけて膀胱を水圧で拡張（**膀胱水圧拡張術**）した時に五月雨状の出血が見られる特徴があり、同時に膀胱を拡張することで症状が緩和することが多く、検査であると同時に有効な治療でもあります。当院は、治療をかねた短期間の入院で行っています。



膀胱水圧拡張術により、一見正常に見える膀胱粘膜（左）から拡張後に五月雨状出血が見られた（右）
間質性膀胱炎・膀胱痛症候群診療ガイドラインより引用